

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800964
法人名	株式会社 ジョイ
事業所名	グループホーム ハッピージョイ
所在地	神戸市垂水区桃山台7丁目5-10
自己評価作成日	令和6年5月31日
評価結果市町村 受理日	令和6年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開設し今年で21年目を迎えました。利用者様は年々重度化されてきているが、入居を長く続けて頂くように主治医の往診以外に歯科・眼科・皮膚科なども往診に来ていただけている。訪問看護ステーションとも連携し24時間安心して過ごして頂けるように整えております。コロナも徐々に落ち着いてきたので、その時々状況を見ながら交流の場を増やしていけるようにと考え、現在は敷地内の庭でお茶会を開いたり、今年は自治会の盆踊り大会にも参加する予定です。昨年からラインを活用し家族様と密に連絡をとったり、オンライン面会も始めました。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】①ヒヤリハット報告：毎月集計されたヒヤリハット報告を施設に訪れた方々が早やういよう玄関ホールエレベータ横壁に掲示している。②24時間緊急時医療体制が整っている。③1階浴室には特殊浴槽を設置し重度化にむけ整備されている。
【工夫点】①市町村とメールでのやりとりし相談や情報を早く得ることができている。②他施設とラインワークを活用しコミュニケーションを図る取り組み。家族様との連絡をラインやオンライン面会など有効活用している点③食事を楽しむことの支援：敷地内採れた野菜を食材に取り入れ食への関心を高めている取り組み。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と2/3くらい 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が2/3くらい 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が2/3くらい 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
自己評価	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営		
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待防止の研修を行い「虐待とは何か」「職員同士で意見を出し合い注意し合える環境作りをしている。日々の業務での言葉遣いや対応にも注意を払っている。	高齢者虐待防止の研修を行い「虐待とは何か」「職員同士で意見を出し合い注意し合える環境作りをし利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努め又運営推進会議にて議題を挙げて事例を踏まえて検討している。		

自己評価		外部評価	
項目	自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8 第3者	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を含め権利擁護に関する制度の内容を理解するよう職員会議で学ぶ機会を設けている。多数の利用者様を担当されている後見人様もおられるので、情報交換は密に行っている。	現在成年後見制度活用者が9名在籍し成年後見制度を含め権利擁護に関する制度の内容を理解するよう職員会議で学ぶ機会を設け、1ヶ月に1回職員会議で情報交換を密に行っている。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約内容の説明をし、納得して頂いた上で契約している。重度化した場合や緊急時、急変時、看取りについても専用の用紙を作成し、説明の上同意を貰っている。	契約の締結、解約又はや改定等の際は、入居契約の際に契約内容の説明をし、納得して頂いた上で契約し、重度化した場合や緊急時、看取りについても緊急搬送の説明を実施している。
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から家族様が意見や要望を管理者及び職員に伝えやすいような雰囲気作りを心掛け、介護計画作成の時にアンケートを実施し意見、要望を聞き反映している。最近はラインで気軽に相談や意見を貰っている。	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、日頃から家族様が意見や要望を管理者及び職員に伝えやすいような雰囲気作りを心掛け利用者や家族等が意見、要望を管理者ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや定期的に面談を実施している。又、フロアリーダーを窓口に関連する職員の意見や提案を受けとめ、話し合いの場を設けている。管理者は各階フロア会議に出席し意見交換している。	管理者は職員アンケートや定期的に面談を実施し又、フロアリーダーを窓口に関連する職員の意見や提案を受けとめ、話し合いの場を設けて各階フロア会議に出席し意見交換している。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のコミュニケーションとチームワークを大切にし、現場で働く職員の志気を高めやりがいやサービス向上に繋がるように努めている。午後から10分程の休憩時間を新たに作りリフレッシュできるようにしている。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修(現在はオンライン)に参加している。ケアに対する力量が個々に違う事をふまえ個人的に介護指導したり、研修内容も工夫するようにしている。業者と協力しておむつ研修も実施している。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とネットワーク(ライングループス)を利用して簡単にコミュニケーションがとれるシステムを利用したり、ズームでの研修にも参加している。入居された利用者様の前におられた施設の職員の方々とも交流している。	

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面談時に説明し 要望の聞き取りを行っている。入所後は利用者様に寄り添い不安を取り除いて頂けるよう心掛けています。入所後は出来るだけ早く馴染んで頂けるように、常にお声掛けするように心掛けています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談時に家族様の要望をお聞きしている。又、要望などは出来るだけ迅速に対応出来るよう心掛けています。入所後の家族様の希望にもその都度対応するようにしている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の身体状況や精神状態を考え希望に添えるよう支援している。又、特養入所待ちの方の受け入れも行っている。諸事情によりすぐにでも入所したいとの要望にも、出来る限り対応している。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たため園芸などに取り組んで頂き役割を持って生活して頂くよう対応している。職員は、利用者様と寄り添い同じ時間を過ごす事で関係を築いている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な物品の購入をお願いしたり、現在はコロナの影響でなかなか外出が難しいので、家族様が来所されて面会時に一緒に散歩に出かけられる。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも少し落ち着き、ご友人が受診や選挙に連れて行ってくださったりされる。又、以前入居されていた施設の職員が訪ねてくる事もある。	時間制限はありますが自室や玄関ホールで家族様面会が実施されている。家族様と一緒に食事に出かける方もおられます。以前から利用している美容院へ毎月通われなど生活習慣を尊重し継続的な支援をしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナの関係もあり、屋内での交流ではなく庭で各階利用者様が集まっておやつを召し上がる。談話して頂けるように工夫している。			

自己 者三	項 目	自己評価		外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様がボランティアとして来所されたり、他の施設に移られた利用者様の家族様からも近況報告して頂いている。退所後も出来る限り相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情を通じて本人の意向を聞き意志を尊重している。利用者様の心身の状況を考慮し思いに寄り添うように支援している。	本人はどのように暮らしたいのか、日々の関わりの中、言葉や表情からその真意を推し量り確認するようにしている。職員がひとり人の思いや意向に関心をはらい把握している。本人の視点に立ち話し合って取り組んでいる		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にケアマネや家族様からこれまでの生活歴や環境を詳しく伺い職員が共有しサービス出来るように努めている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や生活記録などで情報を共有している。又、日々の生活での会話、表情、行動などの日常動作を観察し現状把握に努めている。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずはご本人に思いや意向をお聞きし、職員間では、フロア会議などで意見を出し合いご家族様には、電話や書面で意向の確認を行い本人に適した計画書を作成している。	計画については本人と話し合い、意向を反映するようにしている。また家族様にはアンケート等を実施し思いや意見を聞き取るようにしている。短期目標をは3か月1回見直し現状に即した計画作成に努めている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、業務日誌、申し送りノート、口頭での申し送りなどで職員間の情報共有を徹底している。利用者様の状態変化時などはその都度介護計画の見直しを行う。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マツサージや散髪や口腔ケアなどの訪問。眼科、皮膚科、歯科など必要に応じ往診して頂ける体制をとっている。			

自己 評価 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の盆踊り(予定)に参加したり、職員と近場に花見に出かけたり、畑で野菜を作ったりして楽しんでいる。又、レクリエーションにも工夫している。			
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医への受診、往診も引き続き利用している。医療も24時間対応や訪問看護ステーションとの連携もしている。口腔ケアを開始し嚥下障害や誤嚥の防止に役立つように支援している。	本人馴染みの医師による継続的な医療を受けることができる。事業所は2箇所の協力医による往診が可能で本人、家族希望で選択できる。24時間訪問看護と連携し夜間急変時連絡対応できる体制が整備されている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の状態を看護師に報告し連携体制をとっている。訪問看護は週に一度来所し職員と情報交換をしながら状況確認し、相談にも応じて貰っている。			
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し病院に提供してご本人様の普段の状況を伝えるようにしている。退院時には病棟ナースや相談員と情報交換を行い退院後の受け入れ体制を整えている。	医療機関に対して、入院の目的を早く伝えられるよう「介護サマリー」を作成し提供している。なるべく混乱がないように食事形態や日頃のケアー状況、特徴など記載している。退院時は、できるだけ戻っていただけるよう回復状況を見ながら速やかな退院支援をしている		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向にそった終末期を迎えられるように努めている。意思疎通が出来る利用者様にはお話を聞きしお声掛けを増やして少しでも安心して頂けるよう支援している。職員はターミナルケアを意識共有し、24時間可能な医療体制を整えている。	契約時は、「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し意思確認をしている。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得のいく最期が迎えられるように、話し合いを繰り返し積み重ねて取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時の研修や訓練を行い職員全員がAEDを使用出来るよう心掛けている。急変時のマニュアルも作成している。			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、消防訓練を実施し地元の消防団長でもある職員により災害時の対応などの指導を受けている。	春と秋に避難訓練、消防訓練を実施し地元の消防団長でもある職員により災害時の対応として消火器活用などの指導を受けている。		

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉かけや対応をし、人格を尊重し「否定せずに」接する。又、プライバシーの保護に関しては施設、職員が主体性を持って保護する。又、慣れ親しんだ関係で、ご本人様の尊厳を無視しない対応。	プライバシーを損ねるような言葉かけになっていないか、日常的な確認と改善に向け取り組んでいる。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応になっっていないか職員会議やフロアー会議で話し合っている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では、本人の選択を最優先にして支援するように努めている。又、利用者様自身で出来る事はいつでも支えてあげられるように心掛けています。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや日課計画表はあるが、利用者様の体調や意向に考慮し過ごして頂いている。レクリエーションの参加もお声掛けの上、自己決定を促している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、出来るだけ自己決定して頂いており、1日に何度も着替えられ楽しまれている利用者様もおられる。訪問理容を利用する際は、本人の希望を重視している。			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューをお伝えし、職員とお話したり食事内容で食器を変更し盛り付けも工夫している。食事後は、食器洗いをされる利用者様もいる。又、庭で利用者様と一緒に収穫した野菜も提供している。	毎日のメニューを食事前に職員からお伝えし食事への関心を引き起こし食欲を高める工夫をしている。畑で作った野菜を利用者と一緒に収穫し料理に取り入れます。個々の力を活かしてその人がやりたい下膳やテーブル拭きなど前向きな気持ちを大切にしている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は摂取表にて記録し調整するようにしている。利用者様の咀嚼、嚥下状態に合わせて刻んだり、ムース食を提供している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で口腔ケアをして頂き、不十分な時は職員が介助しています。 歯科医院と連携して毎週口腔ケアに来て頂いている。			

自己評価		外部評価	
項目	自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 第三者 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。個人に合わせた時間毎のトイレ誘導を行い自力排泄の支援を行っている。トイレ誘導時にはブライバシーを配慮しお声掛けに注意している。	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう、排泄表をもとに本人の生活リズムにそった支援と使いやすいトイレ環境を整備している。あからさまな誘導ではなく、周囲に気づかれないな等の配慮を心掛けています。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し状況を確認し医療職と連携して対応している。散歩、体操、水分量に気を付け、便秘が続く時は、普段おむつ対応の方でも職員2人介助でトイレに座って排泄出来るように援助している。	
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思、タイミングに出来る限り対応し入浴して頂く。本人の体調によっては、足浴や清拭を行っている。又、柚子湯や菖蒲湯など楽しみにされている。入浴拒む方もいる。おしやるのでお声掛けには注意を払っている。	スムーズで安全な入浴ができるよう、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にしながら週2回は入浴していただく。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫で入浴支援を試みている。利用者の心情を察し、同性や異性介護など配慮している。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ個々の生活習慣に合わせた就寝時間に対応している。夜間帯は不安になられる方も多いので、声かけしたり職員が側にいる事をお伝えし安心して頂いている。寝付けない方にはホットミルクを提供する事も受診、往診後の処方の変更がある時は、看護師からの説明を受けフアイルを確認する。又、服薬介助時は声出し確認し、飲み込みまで支援している。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にあった時間の楽しみ方をして頂くよう支援している。園芸や塗り絵。又、計算が好きな方や字を書くのが好きな方には問題集などでもして頂いている。コロナも落ち着いているので、囲碁・将棋も再開する予定。現在もコロナの影響でなかなか外出は出来ない状況ですが、職員と近所を散歩したり近くまでドライブしたりしている。家族様との外出は状況を見ながら徐々に行い外食される利用者様も増えてきている。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		これまで通り外に出かけられるよう散歩や玄関前ホールでのお茶会など行われています。春は、桜のお花見ドライブに出かけました。この夏は地域の盆踊りが再開予定でも楽しみにしている。四季折々の行事ごとにイベントを計画し職員と一緒に積極的な支援を展開している。

自己 者三	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は職員と一緒に買い物に出掛け、品物を選ばれしジでお金を支払うところまで支援していたが、現在はトラナル防止の為お金は所持されていません。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、ご本人に書いて頂くようにしている。最近はオンライン面会も取り入れ、気軽に交流出来るように支援している。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様と職員が一緒に作った壁画を飾り、居室のドアには季節を感じて頂けるような飾りつけをしている。ホールは広く外からの光も適度に入る。	共用の空間には利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激等がないよう配慮し利用者と職員が一緒に作った壁画を飾り、居室のドアには季節を感じて頂けるような飾りつけをし居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とダイニング、リビングに分けお好きな場所でお好きな様に過ごして頂けるように工夫している。ホールで将棋をされる方や、塗り絵をされる方、居室でテレビを観られる方、その時々で思い思いに過ごされている。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品など持ち込まれている。仏壇も持って来られ安心して過ごされている。ご本人様がよくつづる居室を提供している。	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇を持ち込み本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており車椅子や歩行器の方の移動も可能になっている。ホール内には手すりも設置しており安全に歩行出来るよう工夫している。			